

ソマチット

- ・フランス人科学者のガストン・ネサンが光学顕微鏡で「人の血液中に超微小生命体が存在する」ことを発見した。
- ・人間だけでなく、動物・植物・昆虫・バクテリア・・・すべての生物に存在する。
- ・超古代からいる生命の起源であり、DNAも細胞も免疫もすべてあやつっている。
- ・超高温、低温・無酸素・硫酸・高圧・放射能でも死なない。不死の生命体



ソマチットは、赤血球の100分の1の大きさ

ソマチットは強いマイナス電子を帯びている物質。

ソマチットの働きを活性化させることで、“自然治癒力を高め”疾病を治癒させる事が可能であるという事実が明らかにされている。

またガン細胞は強いプラス電子を帯びた物質である。マイナス電子を持つソマチットが活動してガン細胞の持つ電子を中和することで、ガン細胞と戦うという仕組みになっている。

・健康な場合
血液内にソマチットが多くみられる
ソマチット自体の動きが活発
それぞれの個体が小さい



・疾患等の問題がある場合
血液中にソマチットが少ない
動きが活発でない、弱い
それぞれの個体が健康な場合と比べて大きく見られる



ソマチットは

「遺伝情報を記憶しており、伝える機能がある」

「エネルギーを受信し、物質を作り出す能力がある」

「電子をミトコンドリアに供給する能力を持つ」

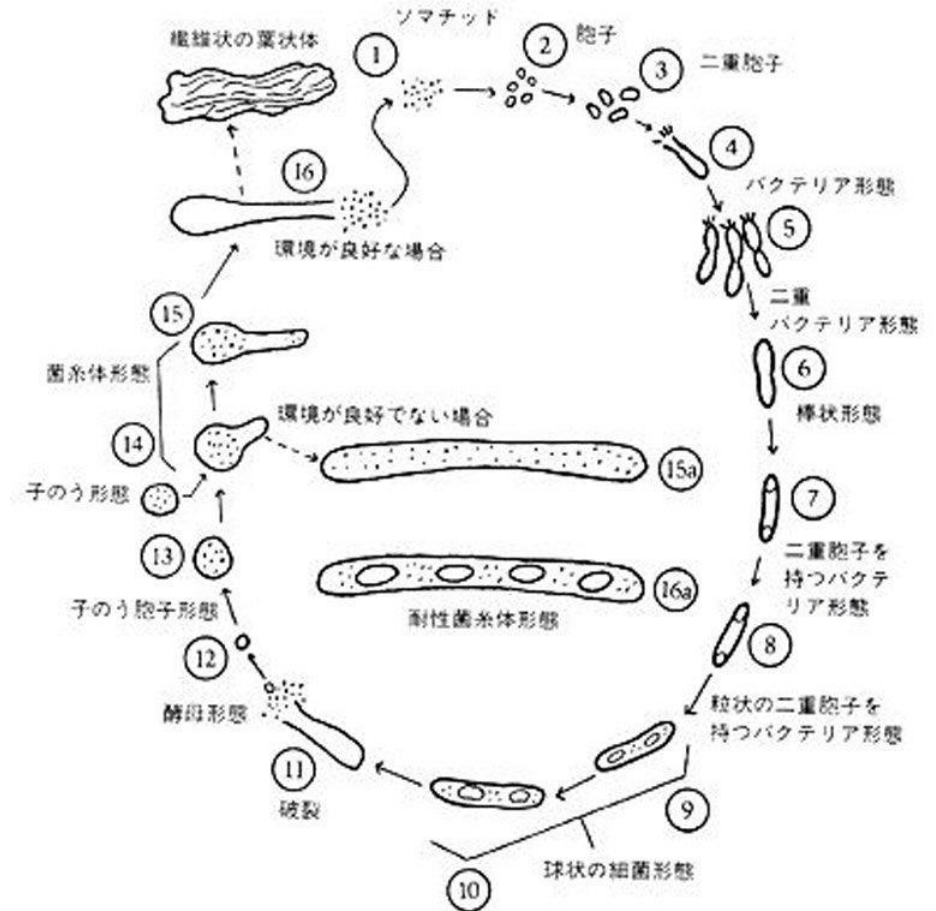
ことが分かっているため、

体内中で「ソマチットが正常に機能できる状態」を作り出すことが、心身を良い状態に保つためには非常に重要であると、今では考えられている。

ソマチットの活動が弱い時や病気や強いストレスを感じると体内でシェルターを作る。マイナス電子を与えることにより、本来の機能を取り戻し元気に免疫力を上げていく。

現代社会は多くの化学物質、放射線(能)、電磁波、などが恐ろしいほど多く存在している。これらはすべて程度の差はあれ「プラス電子」を帯びている。太古の昔にはこれほどの化学物質はなかったと考えられる。恐らく地球上の電子レベルが昔よりプラスに偏っているのではないかと思われる。

ソマチットサイクル



体内で16タイプに変容するソマチット
ソマチットの状態により健康状態を推測できる
①②③が健康状態 ④～⑬は病的状態